

柏市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年4月～26年3月)

※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

- 「裏カシ(古着・雑貨等)」「ストリートミュージシャン」等で知られる「若者のまち」
- JR、東武鉄道が交差した交通結節点
- 様々なイベントの舞台である日本初のペDESTリアンデッキ(S48)の老朽・陳腐化
- 郊外大型店の進出や、つくばエクスプレス開業(H17.8)により、中心市街地の商業機能が衰退

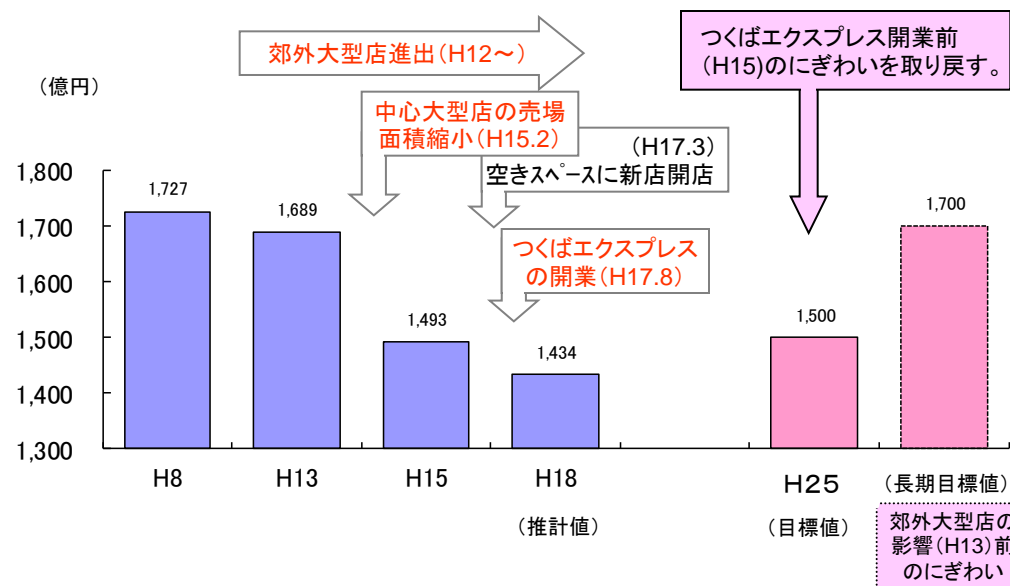


- 小売販売額の減少
(H8: 1,727億円 → H18: 1,434億円(▲17.0%))
- 歩行者通行量(休日)の減少
(H9: 108,512人 → H18: 93,593人(▲13.7%))
- 柏駅乗降客数の減少
(H8: 495,575人 → H18: 393,826人(▲20.5%))

【目標】

目標	指標	現況値(H18)	目標値(H25)
商業の活性化	年間小売販売額	1,434億円	1,500億円
まちなかの回遊性の向上	歩行者通行量(休日)[主要な回遊動線上の8地点合計]	84,941人	90,000人 (6%増)
まちなかの魅力の向上	滞留時間	2.4時間	30分増 (H18比)

中心市街地における年間小売販売額と数値目標



「若者のまち」の特性を活かしつつ、再開発等による回遊拠点の形成や、ペDESTリアンデッキの改修・バリアフリー化や中央図書館の整備、小規模トレーニングジムの設置等を進め、「あらゆる世代に対応する」広域商業拠点としてのまちづくりを行う。

柏市中心市街地活性化基本計画の事業概要

広域商業拠点としてのまちづくり

まちなかの回遊性の向上

拠点の形成

- 2つの市街地再開発事業や大型店の増床等による商業施設や図書館、クリニックモール等のあらゆる世代のニーズに対応した拠点施設や、ファミリー向け住宅の整備



拠点をつなぐ歩行者空間整備

- 歩道整備、電柱地中化、街路灯更新、防犯カメラ設置等、あらゆる世代が歩きやすい空間を整備し、そこを舞台に新たなイベントを実施することにより、賑わい、回遊性を創出



休日歩行者天国を利用した 柏駅前通り商店街パフォーマンスイベント

商店街の魅力向上

- 顧客参加事業等の実施による商店街と地域住民等との共同事業の実施



はないっばい運動

- 商店街の外観や土地利用等の課題に対し、芸術・文化等品格ある商店街ブランドイメージ(憲章等)の検討

若者のまち



【音楽】ミュージックパフォーマンスコンテスト



【ファッション】裏カシMAP



【アート】学生によるJOBANアートライン活動

- 活動の場となるペDESTリアンデッキや歩道等を整備
- ファッションや音楽に加え、アート、飲食等流行に応じたイベント等の活動分野を拡大

まちなかの魅力の向上

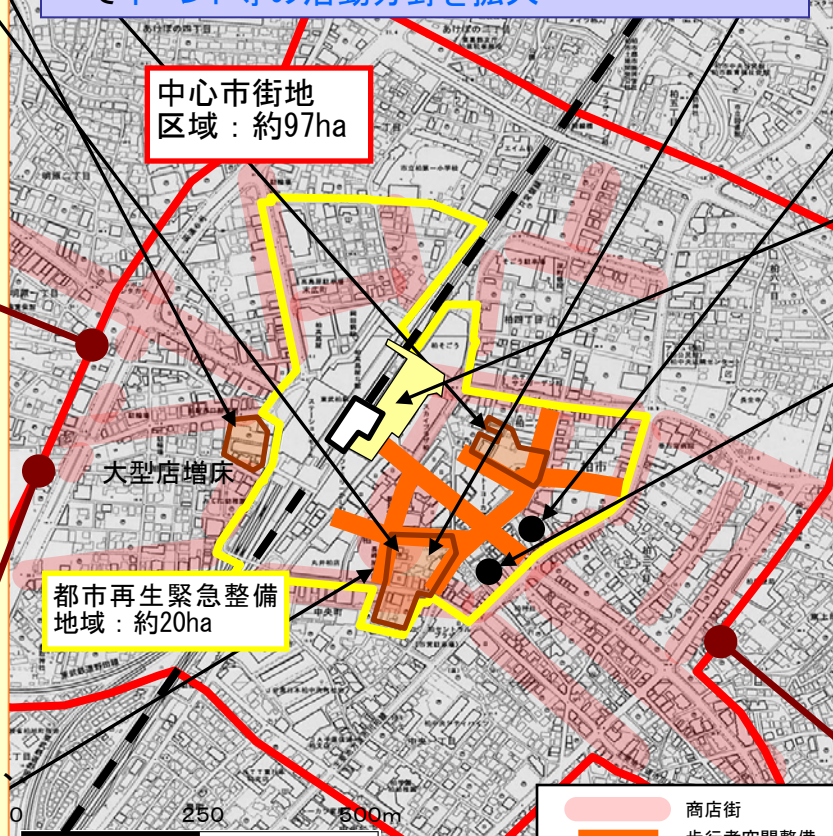
あらゆる世代に対応

- 中央図書館を中心市街地へ移転し、大幅の増床、バリアフリー化、ゆったりした開架・閲覧スペース、市民交流活動スペースの確保等の機能拡張
- 空き店舗を活用した、主に高齢者を対象としたトレーニングジム「十坪ジム」の設置
- 高齢者用共同住宅(+商業施設)の整備や、それに併せた生活環境の向上に資するイベントの実施
- 老朽化した鉄道駅舎、ペDESTリアンデッキ等の改修、バリアフリー化
- 柏市民活動センターにおいて市民公益活動の支援や、かしわインフォメーションセンターにおいてNPOによる来街者へまちなかの情報提供等の推進



安全・安心

- 商店会等による空き店舗を活用した民間交番の設置(駅西エリア)
- 自主的な防犯パトロールや放置自転車防止のための街頭指導の実施



中心市街地
区域：約97ha

大型店増床

都市再生緊急整備
地域：約20ha

商店街
歩行者空間整備